

令和7年度第2回庄原市外国語教育研修会

令和7年10月20日（月） 庄原市立総領中学校

＜研修会の目的＞

- 中学校外国語科の授業研究を通して、本市中学生の実態及び中学校の取組を知るとともに、児童生徒のコミュニケーション能力の育成に向けた指導方法の在り方について研究を深める。
- 外国語科の授業づくりのポイントについて理解を深めるとともに、校区内の小学校、中学校の取組や状況について協議することを通して、本市外国語教育の充実に資する。

【研究授業】第2学年 Power-Up4「メールで近況報告をしよう」

授業者 庄原市立総領中学校 教諭 名越 大輝、ALT Shauna-kaye Rodney

単元ゴール

9月にオンラインで交流した韓国の中学生ともっとお互いについて知り仲良くなるために、交流した内容や自分の近況について自分の考え、気持ちなどを整理し、メールで伝えることができる。

本時のめあて

韓国の中学生へのメール文を改善・修正することができる。

＜指導のポイント＞

- コミュニケーションを行う目的や場面、状況を明確にした課題を設定し、つながりのある単元構成にする。
- 9月のオンラインでの交流と、今回のメールでの交流の違い（目的、場面、状況等）に着目し、工夫点や改善点に気付かせる。
- 一人1台端末を活用し、互いのメール文についてアドバイスをし、修正・改善する。



【研究協議】生徒のコミュニケーション能力の育成に向けた指導の工夫について

＜協議内容＞

- 単元ゴールを「韓国の中学生ともっとお互いについて知り仲良くなるために」と設定することで、生徒は相手意識、目的意識をもって取り組むことができていた。児童生徒にとってやってみたくなる単元ゴールと言語活動の設定をしていきたい。
- メール文を書くという場面を設定し、タブレットで文字入力をする活動につなげたり、お互いのメール文をクラウド上で共有したりするなど、タブレットの活用の仕方が参考になった。
- 難しい単語の意味を ALT に英語で説明してもらったり、ALT とのやり取りを生徒に聞かせたりして、生徒が英語を聞く機会を増やしていくこうと思った。
- 授業の中で児童生徒がどれだけ英語に触れているかを大事にした授業づくりをしていきたい。



【講話・演習】「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に向けた外国語科の授業づくりについて」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 福原 理恵

■目指す児童生徒の姿と、外国語教育を通して育成を目指す資質・能力について共通理解し、明日からの授業実践に生かすことを目的として講話・演習を行った。

- 小学校卒業時（中学校入学時）に目指す児童生徒の姿について、各中学校区で交流し、共有した。
- MEXCBT に搭載されている令和8年度全国学力・学習状況調査 CBT サンプル問題（中学校英語）を実際に体験し、児童生徒に必要な資質・能力を理解するとともに、その育成に向け、各校で取り組むことを確認した。

【参加者の振り返りより】

- 中学校区で小学校卒業時までにどのような姿になっていればよいか共有できたことで、自分のクラスの児童に今後付けていきたい力が明確になった。
- 単元やその授業でどのような姿に向かわせたいのかを具体的に設定し、指導の充実と指導後の評価を繰り返して、よりよい授業を目指していきたい。
- CBT 調査に向け、小学校段階でできることに取り組んでいきたい。早速、職員研修で MEXCBT について所属校の先生方と共有する。
- CBT 問題は内容以外にも、操作や画面上で問題を読み取る点においても想像より難しいと感じたので、積極的に活用し、慣れさせていきたいと思った。